

なまろーど

The Name Road

ホームページアドレス
http://www.ranshokai.jpE-mailアドレス
info@ranshokai.jp発行所 高岡教区寺族青年会
住所 〒933-0878
高岡市東上関466
西本願寺高岡会館内
発行人 耳浦 康真
編集者 広報部
発行日 2018年3月31日

巻頭言

鸞翔会

第二十二代会長 耳浦 康真



平素より、寺族青年会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

今年度四月に新しい体制での寺族青年会がスタートしました。今年度は、一昨年度に開催された寺族青年会発会四十周年記念事業や、同年六月に高岡教区主催で開催された浄青僧カップフットサル全国大会の時に、まだ入会して間もない会員や、この時に入会した会員を、この大きな行事で学んだ事を会活動に活かしてもらおうと考え、新役員に迎えました。

新体制発足当初には、私自身もやはり慣れていない状況もあり、最初は僧侶なら誰でも話しやすい、自分たち僧侶の内面を学ぶ研修会などの企画が提案されていました。しかし、

日が経つにつれて会員同士が、お互いに年齢も関係なく話し合えるようになってきました。

そこで出てきた課題は、自分たちの内面ばかりを重視するのではなく、若手僧侶が直面している社会的状況や、普段目の当たりになっている社会生活での僧侶の立ち位置を考え、「外部に発信してゆく会活動」を模索する事であるのではないかという考えに転換してゆきました。

また、寺青会員は仏教青年会活動にも関わっており、年に数回、本山での研修にも数名参加しています。私も数回参加させていただきました。その中でも、若者の宗教離れについては深刻な問題と考えさせられました。しかしこれは、単に仏教に触れていない現代の若者に原因があるのではなく、若者に仏教に触れさせてあげられない、同世代の僧侶にも大きな原因があるのです。

寺族青年会でもこの問題には数年前から関心は向けられていましたが、なかなか打開策がありませんでした。その時、「若者の集い」を寺青の若手会員を中心とした仏青が担当する

事になりました。私も仏青に今回はお任せして、当日までほぼノータッチで若手会員を信じる事にしました。「お寺に一般の友達や知人を、それぞれの会員がお誘いし、一緒におつとめをして、お話を聴聞してもらったり、懇親会にも参加していただいて親交を深める」という企画で、人が集まってくれるか心配でしたが、私が予想したより多くの人が集まってくれて嬉しく思いました。また何よりも若手僧侶たちがここまで出来る事を頼もしく思い、おたがいの意見を尊重しながら会員が知恵を出し合い、大変な思いをして、この日の若者とのご縁をつくってくれた事に感謝の思いでいっぱいでした。

今年度の最後で、目標としていた「外部に発信してゆく会活動」が実現できました。しかし、これに甘んじる事無く、せっかくなのでこの若者のご縁を大切にこれからの会活動に活かし、そして会員の親交もさらに深めてゆきたいと思えます。

みなさまには今後も寺族青年会に変わらぬご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

寺族青年会四十周年記念 台湾四泊五日の旅

平成二十九年四月三日〜七日

糸岡組 初瀬部 真 亮

四月三日から七日にかけて、昨年の寺族青年会四十周年を記念した台湾研修旅行があり、福田団長を中心に寺青メンバーとそのご家族の総勢九名で行ってまいりました。

現地では西本願寺別院跡を始め、いくつかの仏教寺院を参拝させていただきました。各寺院では現地の若い方の参詣も多く見受けられ、世代を超えて大切にされる信仰の姿を見ることができました。

また、台北最大の夜市である士林夜市の散策や、中国美術文化の宝庫である故宮博物館の見学、ノスタルジックな町並みが有名な九份観光など、しばし自坊の法務を忘れて異国の地を満喫してまいりました。個人的には、河口沿いの町「淡水」において、美しい夕日を眺めながらゆったりと過ごした時間が印象深く思い出されます。海沿いのベンチに座り仲間と飲むビールはまた格別なものがありました。

その他にも小籠包や火鍋、今回の旅のキーワードとなった臭豆腐(独特な匂いを放つ豆腐です)などの台湾グルメも堪能し、それぞれが思い出を胸に帰国いたしました。



歡送迎会

平成二十九年五月十四日

若神組 麻 生 裕 善

去る五月十四日、西本願寺高岡会館において寺族青年会総会が開催されました。総会終了後には、「たかまさ」にて歡送迎会が開かれ、二十二名が参加しました。

長年お世話になった十名の先輩方が一気に退会されるということで、少し寂しくなります。ですが、先輩方が繋いでくださったこの寺族青年会を、また新たに迎えてくれた新会員とともに、より一層盛り上げていきたいと思っております。

第十回浄青僧フットサル全国大会

平成二十九年六月二十一日

若神組 水 上 賢 志

六月二十一日(水)、第十回浄青僧フットサル全国大会が山陰教区主催により広島にて開催されました。

三連覇を目指した高岡チームロータスFCでしたが、様々な事情により今回は七名(OB二名)と少ない人数での参加となってしまいました。それでも、大会ではチーム一丸奮闘して、予選リーグを突破しました。しかしながらやはりスタミナが切れてしまい、準決勝、三位決定戦には敗れ、四位という結果に終わりました。

当日の夜に行われた懇親会では、互いの健闘を称えあい、教区をこえた交わりがもて、大いに盛り上がりました。また、その場で発表された大会MVPには、見事我がロータスFCのメンバーが選出され、多くの景品とお土産を頂きました。

今回の四位という結果には、とうてい満足できません。失ったトロフィーを取り戻すために今年度も練習を重ねていきたいと思っております。また、皆様のご協力をよろしくお願い致します。



井波別院永代経法要

平成二十九年七月二十八日

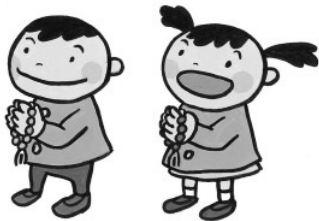
新湊組 常川正智

七月二十八日に井波別院の永代経法要に、出勤させていただきました。寺族青年会として一日だけですが、毎年永代経法要に出勤させていただいて、今年も無事勤めることができました。

今年の作法の内容も、会員で話し合い「重誓偈律曲」のお勤めに決まりました。難しいお勤めになるので、法要の数週間前から教務所に会員が集まり、習礼を重ね、永代経法要当日に備えました。

私はこの寺族青年会の会員として永代経法要に出勤するのは二度目ですが、今年も伽陀頭をさせていただく事になりました。ですが、本番では緊張のあまり、音がずれて出てしまい、微妙な結果となってしまいました。お勤めそのものはスムーズに進んでいき無事勤める事ができました。

自分の練習不足で皆さんの足を引っ張ってしまいました。来年こそは十分に練習してリベンジしたいと思います。



福島ホームステイ

平成29年8月6日

水波組 村上昂文

今年も八月に、福島飯館村より多くのホームステイ参加があり、教区ホスト寺院や寺族青年会員を含め交流を深めることとなりました。

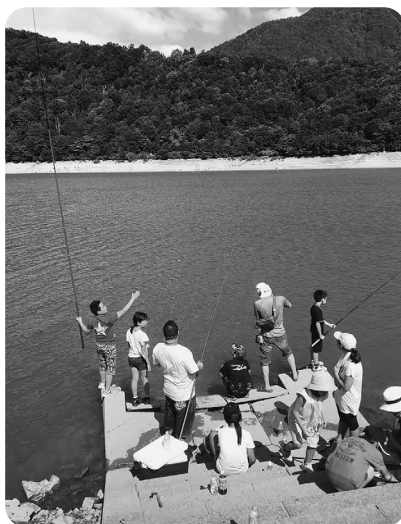
年々、ホームステイに来られる子供達が大きくなり、笑顔振りまく姿に、こちらも自然と笑顔になり、元気を分けていただいた気がいたします。子供達の成長を感じ、嬉しくなります。

今年も桂湖でカヌーを漕ぐ体験や、釣り、蕎麦打ちの体験など、初めての事に大人も子供も日常を忘れ大いに盛り上がりました。

また天候にも恵まれ、五箇山の自然の中のバーベキューを楽しむことが出来たことで、より一層、富山の大自然を味わっていただくことが出来たのではないかと思います。

最後にはキャ

ンプファイヤーを囲みながら手を繋ぎ、踊りながら歌を歌い、皆んなが笑顔になる大変心温まる交流会となりました。



ねっと輪くく2017

平成二十九年八月二十七日

五位組 福田慶隆

二年に一度開催しているこの「ねっと輪くく」は、福祉作業所の皆さんと青年会が交流させていただく大切な場となっています。今回は二カ所の作業所さんが参加してくださいました。



八月二十七日(日)午後二時より西本願寺高岡会館にて、「ねっと輪くく2017」が開かれました。

寺青からの出し物としては、勅式サークルによる「正信偈」のおつとめや「雅楽演奏」、会員による「ビンゴゲーム」、手話サークルによる「手話コーラス」が行われ、作業所の皆さんと共に、楽しい時間を過ごすことができました。

また作業所さんからもコーヒーや自主製品を販売していただき、製作者ご本人とお話をしながら交流させてもらえたことは、何より嬉しいことでした。

今後この「ねっと輪くく」がつつながっていけばと思います。一方で、福祉作業所さんと青年会の長年のつながりに比べ、作業所さんのことについて知らない現役会員が多くなってきていることに大きな課題も感じました。



平成29年度 第一回寺族青年会連研を終えて

平成二十九年九月九日

川上組 石黒 英俊

今回は葬儀司会者・終活カウンセラーの方をお招きし、様々なお話を伺いました。その中でも印象に残った事を三点ご紹介します。

一点目が仏事法要において、新興宗教では参列者の真剣みが際立っているのに対し、真宗門徒はCDだけで十分だと考える方が増えてきているそうです。実際、僧侶を呼ばずに葬儀を行った事例が県内にあったことに驚きました。

二点目が、よく聞かれる質問が仏事の意味・由来についてだそうです。訳も分からずに仏事をこなすことに抵抗があった人も、意味を知ることによって必要性を感じる方が多いそうです。私たちが常識だと思っていることが普及していない事実を認識し、再度伝えていく必要性がありそうです。

三点目が、僧侶に相談してみたいと考えている人が少なくないそうです。門信徒やご近所の方々との関わり方を直し、信頼関係を再構築する必要がありそうです。

これから私が一僧侶として何が出来るのか、今一度向き合い、実践していきたいです。



教区内BBQ交流会

平成二十九年九月十五日

糸岡組 平野 俊

九月十五日、高岡教務所の場をお借りして、「寺青レクリエーション」教区内BBQ交流会」が天気にも恵まれ、賑やかに開催されました。

このBBQは寺青会員、家族、OBの方々にも参加をお願いし親睦を深められるようにという思いから開催されたレクリエーションで私自身も夫婦で参加させていただきました。

会場にはビアサーバーとこだわりのお酒やジュースも揃えられており、参加された方々は皆さん楽しそうに談笑されておられました。

私自身もこのBBQ交流会を通して普段お見掛けはするもののお話したことがなかった方とも交流をさせて頂き、有り難いご縁であったと感じています。今回の様なレクリエーションを今後も計画し、寺青活動に繋げて行けたらと思います。

なお場所の提供から会場設営、食材準備など大変だったと思います。この場をお借りして、皆様のご協力に対して厚く御礼申し上げます。



寺青実践運動研修会

平成二十九年十二月十七日

射水組 青雲乗峻

私たち寺族青年会は、十二月十七日に実践運動研修会として井波別院に訪れました。研修の目的は井波別院の歴史と現状の課題をうかがうことでした。

まず、ご輪番に別院内を案内して頂きましたが、私自身井波別院を訪れるのは初めてでしたので良い経験となりました。今はほとんど使われていない部屋の老朽化が印象に残りました。見学の後はご輪番から講話を頂きました。井波別院は瑞泉寺が大谷派に転派して以来、井波の町に本願寺派の寺院が皆無であったことから、明治時代に井波の本願寺派のご門徒の願いによって設立されたもので、別院運営の難しさを感じました。

井波別院の現状に触れることで、私たちの末寺も同様の問題を抱えているのではないかと考えさせられました。末寺も別院と同じ様に、たくさんの人々の願いによって脈々と受け継がれて今に至ると思います。しかし、今はお寺離れが進んでおり、お寺の運営には少々難しいと感じる面もあります。仏教が伝わりづらい時代の中で、私たち僧侶がこれからのようにお寺を守っていくのが大きな課題ではないかと改めて気づかされました。

今回の研修会は、お寺の未来について考えさせていただく良い機会となりました。

本山総参拝

平成三十年二月二十二日

砺波組 林要順

去る二月二十二日、「ことばのちから」をテーマに浄土真宗青年僧侶連絡協議会「本山総参拝」が開催された。

東京教区青年僧侶協議会（東青僧）様が主体となって準備をしてくださっており、受付が聞法会館にて行われた。沢山の参加者があり、浄青僧の活発さを感じることが出来た。

御影堂にて開会式が行われ、後に安穩殿仏間に移動して研修会が始まった。

研修会には御講師として、伝道ラジオ番組『みほとけとともに〜西本願寺の時間』のパーソナリティを務め、さらにはプロのジャズボーカリストでもある徂真弓氏、本願寺派布教使の福岡義朝師、中央仏教学院講師の谷川弘頭師の三人の御方がお招きされていた。

研修会は司会を務めてくださった徂徠さんが、テーマである「ことばのちから」ということに沿ってご自身のお考えを述べてくださり、福岡師、谷川師のお考えを聞いて行ってくださるといような形で進められた。個人的には、福岡、谷川両師の経験談からなる布教についての心得や、気を付けるべき点等を聞かせて頂き、とても為になった。非常に耳の痛い話であったと感じる一方で、一僧侶として気を引き締め直そうと感じさせてもらった。

次も是非参加させていたきたいと思える、大変有り難い縁でありました。

智

公文名

射水組

三月二十五日、若者の集い“と題し私たち寺族と一般の方々の交流会が行われました。

鸞翔会が今後どのような議論した中でみを行っていくのか議論した中で「同世代の若者が、お寺や僧侶に対してどんな印象を持っているのか、どんな悩みを抱えているのか」「知りたい」「そして「我々僧侶も、皆と同じ悩みを抱えたひとりの人間であることを、知ってほしい」「そんな思いが聞こえてきました。それならば実際に語り合おう!!という趣旨で行われたのがこの交流会です。

当日は男女合わせて十数名にお集まりいただき、我々僧侶も合わせるに総勢三十名を超える会となりました。当日感じたことを端的に申し上げると、「こんな仲間が欲しい」ということです。み教えの中で共に語り合い、共に活動できるこんな仲間が欲しい……。講師としてお招きした織田隆夫氏が指摘された通り、私たちは「寂しい」のかもしれない。

仏教青年会が持っている可能性は非常に大きいのではないかと感じています。今後も継続して交流会を続けていこうと思います。場所を提供していただきました西養寺様、ありがとうございます。

仏青交流会 平成30年3月25日



退会の言葉



関野組 正覚寺 岡田 覚さん

おそらく在籍16年になると思いますが、この度ついに退会することになりました。これまで会長をはじめ、あらゆる役職を務めました。先輩後輩のみなさんのおかげで無事に全うすることができました。

これからの寺青も、若者らしい熱量をもって、やりたいことを実現してもらいたいと思います。ありがとうございました。

最後に、いつの間にか語り継がれている伝説の酒豪の称号は、誰でもいいので継いでください。あげます。早い者勝ちです。



五位組 教願寺 岡西 好持さん

入会してから退会までの約10年間、昨今の閉塞した状況を打開していくための、今までにない新しい活動を模索してきましたが、私たちの思いつくようなアイデアのほとんどは、すでに会の先輩たちによって思いもよらないような大規模な形で実行されてきたものばかりでした。先人たちが何に取り組み、どのような結果がもたらされ、どんな課題が明らかになったのか。そのことを踏まえてこそ初めて新たな道を切り開いていくことが可能になる、というのが40周年記念事業で確認した成果だったと思います。

虐げられ、救いの対象とはみなされなかった当時の民衆の現実の苦悩から出発したのが宗祖親鸞聖人という方でした。聖人自身は当時の体制に受け入れられることなく、弾圧を受け排除されましたが、人々の現実の苦悩に向き合う教えだったからこそ後の世に広まったのだと思います。

親鸞聖人の志を引き継ぎ世に羽ばたいていく寺族青年の集まり、という意味が鸞翔会という名に込められた願いであったと聞いています。会員の皆様のご活躍と鸞翔会の飛躍を願っております。



射水組 浄立寺 草野 光さん

退会を迎え、「寺青で出掛ける」という口実が無くなり困ります。

寺青の活動があったお陰で自坊を抜け出し、近い世代の方と交流ができ、会員のお寺の事もリサーチできました。有難うございました。



関野組 本龍寺 冨永 寿恵さん

中田保育園に勤務し、縁あって夫と知り合い、お寺に嫁いできました。何もわからない私は、お寺の習慣に不安や戸惑いを感じたこともありましたが、寺青での活動で、それぞれの在り方や考え方など、活発な意見が聞かれ、浄土真宗のみ教えが少しずつ私の中にしみこんできました。

お寺に携わる者同士が、共につながり合い、ご縁が広がっていくことは、とても素敵なことだと思います。これからも皆様のご活躍を期待しております。ありがとうございました。



若神組 西連寺 水上 賢志さん

改めて数えてみると、15年ほど在会していたことになるかもしれません。その間、色々な体験をさせて頂き、また多くの出会いがありました。その全てのご縁は私にとって一生大切な宝物です！

本当に長い間ありがとうございました。

新入会員の紹介



若神組 常称寺 小見山 恵佑さん

まだ新人ですし富山に来て日が浅いので、わからないことも多々ありますが、頑張りますのでどうぞよろしくお願ひします！

新入会員募集

高岡教区寺族青年会では随時
新入会員を募集しています。
気軽に参加しませんか。



ホームページ随時更新中!!



<http://www.ranshokai.jp>

法輪せんべいのご案内

法輪せんべいは、当会が販売する法輪マークと法語が
印された一袋二枚入りのおいしいせんべいです。

この法輪せんべいの収益金は、当会活動費の他、様々
な社会活動への寄付や資金に充てられております。

報恩講や永代経のお飾りに、門信徒さんへのお返しや、
ちょっとした贈答品などに、どうぞご用命くださいませ。

(*表示してある価格は、いずれも販売価格です。)

お申し込み、お問い合わせは
代表番号 050-5587-7708
アドレスはhourin18@gmail.com



パッケージはサクラと
若草色の二色です。

品目	袋数	価格
特大	170	8,300円
1組	10	500円

編集後記

今年度より広報に携わること
になり、右も左も分らない状態
でしたが、なんとか無事に「な
まそろーど」四十三号を発行す
ることができました。お忙しい
中、ご協力いただいた会員の皆
様には厚くお礼申し上げます。

来年度もダーナ・バザーなど
様々な行事が予定されています。
ご参加いただけなかった方に
も鸞翔会の活動、魅力が伝わる
よう、広報部一同精一杯努めて
まいりますので、どうぞよろし
くお願いいたします。

